

カリキュラム・マップに基づいた教育課程の検証結果 (一般教育等)

○令和5年度の後期科目・通年科目についての教育課程の適切性の検証結果は次のとおりである。

(検証事項：内容の適切性、隣接科目との内容の重複、開講時期、GIOとの整合性、カリキュラムの問題点等)

【成果・できていること】

- ・教育課程の適切性については多くの科目の担当教員より特に問題ないとの回答を得ており、概ねディプロマ・ポリシーに基づいた教育がなされていると考えられる。

【課題・できていないこと】

- ・後期期間中に実習による休講が生じ、補講期間に数時間分まとめて補講を実施することが受講者の不利益となっていないかとの懸念があげられたが、現行のカリキュラムでは時間割が密になっており、補講期間以外に時間を確保することは困難であると考えられる。
- ・「現代社会学」(全学科・1年後期)という科目名称が、中等教育までの「社会科」(現代社会)を連想させるため、科目名称の変更が望ましい。
- ・「情報と生活」(全学科・1年後期)について、以前より、科目名称から、具体的な講義内容がイメージしにくいという声の一部の受講生よりあがっており、隣接科目との内容重複を回避しつつ社会的ニーズへ応答するためには、科目名称を「情報・メディアの法と倫理」や「情報メディア法とリテラシー」等へと変更し対応することが望ましいと解される。
- ・「データサイエンス入門」(介護2年後期)について、授業科目名の指すところが広範であるため科目名の変更の余地がある。

【その他・今後の検討事項等】

- ・上記3科目(「現代社会学」「情報と生活」「データサイエンス入門」)について、前期科目と併せて科目名称の変更を検討する。